



忘れえぬ人

(株)平成建設 社長 秋元久雄あきもと ひさお

ぼくは過ぎ去ったことには興味がない人間ですが、自衛隊体育学校で出会ったお二人のことだけはときどき思い出します。

一人は神谷公夫さん。ウエイトリフティング(重量挙げ)をやるために東京医科大学を中退して明治大学に入り直し、全日本チャンピオンになった方で、東京・メキシコ両オリンピックの頃の選手なら誰でも知っている名指導者です。

最初にお会いしたときに言われた言葉は、今でも覚えています。「重量挙げは力を使わずに物を持ち上げるスポーツだ。力を使っているようでは世界では勝てない。それがわからないやつは大成しない」。やった人でなければわからない真理に、ぼくは衝撃を受けました。

それから十数年後、ぼくが某ゼネコンに部長として迎えられたとき、「経営に関する知識がないから不安です」と相談したら、こう言われました。「宇宙の大きさから見れば地

球は小さい。地球全体から見れば日本は小さい。日本列島から見れば人間は小さい。それに、人間なんて縄文時代から大して進歩していない。進歩したのは科学と技術だけで、人間の考えていることはいつも似たり寄ったりだ。だから、お前ができることをやればいい。できないことはできるやつに任せればいい。心配するな」。聡明で興行きのある方でした。人生の節目で貴重なアドバイスをいただきました。

もう一人は、東京・メキシコ両オリンピックのゴールドメダリスト三宅義信さんです。三宅さんは才能の人といわれていますが、四年間いっしょにいて思ったのは、才能ではなく努力の人だということです。練習中は毎日のように世界記録を出すのを見ましたが、とにかく練習量が半端ではありません。それでも試合では全力を発揮できず、世界記録までは出ません。しかし、優勝しました。絶対勝てるというところまで練習したからです。

また三宅さんは用意周到で、メキシコオリンピックには食料、水、葉などをわざわざ持っていきました。当時、海外遠征にそうした準備をする人はまだいませんでした。どんなに不利な環境でも勝てる準備をする、頂点を極めるとはこういうことなのかと思いました。

このお二人は、確固たる信念をもって行動し、目標を達成した方たちでした。お二人とともに青春時代の四年間を過ごせたことは、ほんとうに幸運でした。